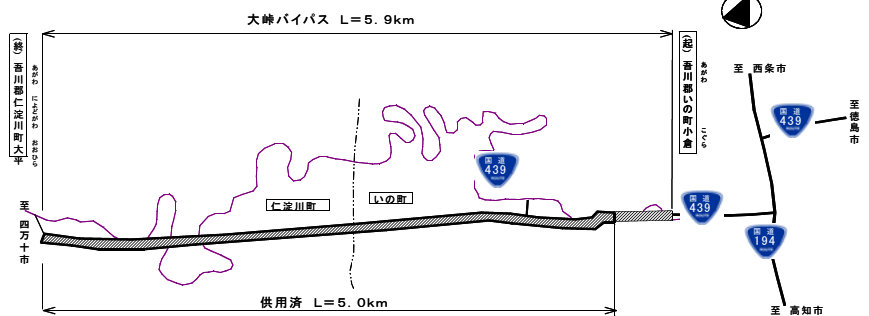


再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村昌司

事業名 一般国道439号 大峠バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 高知県
起終点 自：高知県吾川郡いの町小倉 至：高知県吾川郡仁淀川町大平		延長 5.9 km
事業概要 一般国道439号は、徳島県徳島市から高知県四万十市に至る延長約355kmの幹線道路である。大峠バイパスは、吾川郡いの町～仁淀川町の幅員狭小及び線形不良の解消を目的とした延長約5.9kmの事業である。		
H4年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H4年度用地着手 H4年度工事着手
全体事業費	158億円	事業進捗率
計画交通量	3,368台/日	供用済延長
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 1.0	総費用 (残事業)/ (事業全体) 24 / 207億円 (事業費: 19/202億円 維持管理費: 5/5億円)
		総便益 (残事業)/ (事業全体) 24 / 327億円 (走行時間短縮便益: 24/306億円 走行費用減少便益: 0/19億円 交通事故減少便益: 0/3億円)
感度分析の結果		
事業の効果等 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する。 現道等の事前通行規制区間を解消する。 (他7項目に該当)		
関係する地方公共団体等の意見 地域の生活を支え、高知県山間部の住民にとって「命の道」となる国道439号の整備促進を求め、9市町で構成された高知県国道439号整備促進期成同盟会より要望を受けている。(平成18年11月8日)		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 大峠トンネルを含む5.0kmの供用により、国道33号から国道194号間の未改良区間は、残延長の0.9kmのみとなっており、交通量も増加している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在までに5.0kmを供用している。残延長0.9kmの供用に向け、現在整備を図っている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地交渉の難航により進捗が遅れたが、現時点では用地買収はほぼ完了したため、今後は早期供用を目標に事業を進捗する。		
施設の構造や工法の変更等 切土法面にポット苗を植生することで、周辺の豊かな自然環境への負荷を軽減すると共に、自然景観の復元を図っている。		
対応方針 : 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を考慮すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		



凡 例	
	再評価箇所
	うち供用中

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。